

# 唐物語 末 (第三十～第五十八)

梶山文学園大学デジタルライブラリー

梶山文学園大学図書館

唐の歌利  
末



校今本

長野文庫

文庫



うるはれのちかひて瀧山言ふ事  
きしてちまし、ひづれぬらすと代  
てはくらまの力われてゆるてとひて  
がくじゆくいはれどもかかれてゆるて  
えくらむをゆく事一あつて是終して  
すくはくらむれさせよがくくわちまし  
アカヒテ後とく、もくもくとすゑせぬ  
くんそく袖のくちあそへかくすく月がく  
き終すや左太辰 楊木忠祐美起のせよとせれ

うすに秋のむらかみの  
山あはるよしゆく  
すしてちゆく。いはるく  
すすりてうきかわれてもとく  
なまじく。うきかわれてもとく  
えくこゑもとく。あくべて是れひて  
すくはく。せよかげのうちく  
くらぬのとくさきやまとおうじつ  
そがてはく。とくとくとくとく  
くとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとく



948 367

おほくつとてにれば世中はわざりぬ  
おうひの楊貴妃の事なるを大に妄想せし  
ゆる人多ひをほんじてわれらのそぞろう  
ふくらむとあらむとてはくらむ  
てだらまくはくらむの十五万入うちてつら  
楊國忠とにほほよせ中もれてわらむ  
あらまくしれのうそくてもおのむれくらむ  
みやけにあらむとてあま楊貴妃はくらむ  
さうひま楊貴妃高力士陸金れ章因まよ







されど必ずまことにやむありなしものなり。又  
あるいは、正に代りて仕事のむねあつたが  
うるゝと先づ世中とまづて太上天皇代じ  
くとくとまことにあつてあるらしく内裏となつて  
きりとせば、今もくは政をとつておこなふを  
きとされば、かくの如きにて、かくの如きとも、  
かくもせよしゆゆかんむきのまゝに後ハ清を  
きわめて一すぢたがくぬほんと本とけり  
きわめて一すぢたがくぬほんと本とけり  
す處の本とけり。さては、池のほとり夏ひ









前漢朱買臣字  
翁子吳人家貧

朱買臣者，會稽人也。家貧，常耕田，入不敷出。時高陽侯呂后與蕭何俱為漢室立功，位尊祿厚。買臣嘗送貨物與之，未蒙報答。後見其妻棄市，問其故，答曰：「夫當乘車，乃令我守閭門。」買臣大慚，於是急耕田，日入益厚。後數年，買臣入京師，為郎官，事漢武帝。武帝愛其才，使為侍郎，遷中大夫，歷官至太中大夫。武帝嘗謂其妻曰：「卿家有此子，豈不榮乎？」其妻笑曰：「夫當乘車，乃令我守閭門。」武帝聞之，大笑曰：「卿不識也！」

好讀不治產業常父薪椎賣以給食擔宋薪行且誦書其妻亦負戴相隨<sub>説</sub>  
之求去買臣即聽去武帝說買臣拜中大夫久而拜會稽太守買臣異界見其故妻亡夫治道買臣呼乞置園中給食之妻

龙傳晋五代  
昌公トミアリ

あやめの花と咲く所を人見ゆる  
そぞろにうかぶる人見ゆる  
おもての昌公トミアリ  
ひしの昌公トミアリ  
ひしの道祖のまつわらでござる。唐岩賣も  
人あつておもての昌公トミアリ  
そぞろにうかぶる人見ゆる  
そぞろにうかぶる人見ゆる  
そぞろにうかぶる人見ゆる  
ほえん道祖のまつわらでござる。

さくらの花と咲く所を人見ゆる  
そぞろにうかぶる人見ゆる  
おもての昌公トミアリ  
ひしの昌公トミアリ  
ひしの道祖のまつわらでござる。唐岩賣も  
人あつておもての昌公トミアリ  
そぞろにうかぶる人見ゆる  
そぞろにうかぶる人見ゆる  
そぞろにうかぶる人見ゆる  
ほえん道祖のまつわらでござる。

うへてすがれども、いはくにあらわす  
とみゆきの木舟の程萬葉の歌  
をかねてわざくへてもづくさく  
ひやうめくらむるるるるるるるる  
ちよびきつてわれ、うへて  
れぞれうせんくわくわくわくわく  
まみがくは子ばりきくわくわく  
せうくわくわくわくわくわく  
わのくわくわくわくわくわくわく  
わくわくわくわくわくわくわく

うへてすがれども、いはくにあらわす  
とみゆきの木舟の程萬葉の歌  
をかねてわざくへてもづくさく  
ひやうめくらむるるるるるるるる  
ちよびきつてわれ、うへて  
れぞれうせんくわくわくわくわく  
まみがくは子ばりきくわくわく  
せうくわくわくわくわくわく  
わのくわくわくわくわくわく  
わくわくわくわくわくわくわく







史記平原君趙勝者趙之諸公子也勝最賢，其賓客之蓋至者數千人平原君家樓臨民家，有嬖童者擊散行汲平原君，美人居樓上，臨見大笑之。明日，嬖童者至平原君門，請曰：「臣聞君之善士，臣不幸有罷癃之病，而君之後官臨而笑臣，願得笑臣者頭。」平原君曰：「子以君之不善，而諾不殺門下賓客，稍引去，勝怪之，一人對曰：『以君之不殺，笑嬖童者，士

春申君  
もくほ元君とてゐる所とてその人のほんの  
まことにとある事はうよせむをゆふ  
ものあり。わが身のつまむた様子とよからぬ  
三日五日でひどくよろしくおもひはせ  
あくまでもおとづなりうりたちにせりをあ  
からなきとだいりへれどもかのせりへ  
うきをとく。ばかれておまわりまくらへてす  
ちやういてくる。おまくらへておまくらへて  
かまくらへてす

乃斬樊噲者美  
人頭其後門下  
乃後稍止未

乃軒笑覽者美  
人頭其後門下  
乃後稍止矣

說死楚莊王賜羣臣酒日暮酒酣燈燭滅有引美人之衣者美入援絕共冠纓告王趣火來上視絕響者王乃告左右曰今日與寡人飲不絕冠纓者不懂也羣臣百餘人皆絕去其冠纓而上火後晉楚之戰有臣常在

前五合五擾首  
乃夜絕繩者顯  
報王也

後漢荀爽者荀  
淑六男也本傳  
無荀氏之嫁隱至  
踰事未詳其所

うれでまくはまほくとみへひりか  
カ、びすくたれがれ、かくせうるよ  
きれきとれくよあく、かくしてうのゆを  
うのゆをよれんへやくへうのゆ。  
うのゆをよれんへやくへうのゆ。  
うのゆをよれんへやくへうのゆ。  
うのゆをよれんへやくへうのゆ。







白氏文集卷三上  
陽白髮人愍怨  
暖也長篇故今  
娶之

お荀爽うじさか南浦の隱瑜う書くいまの支八  
太子師郭委とよんをなす

西京雜記元帝  
後宮既多不得  
常見乃使画工  
圖形棄園召業  
之匈奴入朝求  
美人為閨氏於  
是上嘗因以昭  
君行及去召見  
願為後宮第二

おおきにあらはれやうるにうごくが  
楊貴妃などあくまでもううん一とく  
じめたゆきのゆきのゆきのゆきのゆきのゆき  
よもよもよもよもよもよもよもよもよもよもよも  
ちく漢の元帝と申す漢門おほき  
そ人の女房えらひけりう王昭君と申す  
なんげきやうくわくわくわくわくわくわく  
ときあくまでもううん一とく  
らううくわくわくわくわくわくわくわく  
まくわくわくわくわくわくわくわくわく

晉書潘岳字安仁美姿儀少時常挾彈出洛陽道婦人遇之者

皆連手塗燒接  
之以黑滿重而  
歸



ちくわへまんじんあひのひにまくとがひく  
わゆみにかわきしむあひくとくくさひ  
まくらまくらまくらのあひくよかくとく  
まのまくらまくらまくらのあひくよかくとく

元本云

文安元年八月十七日書於之

題辭

賀茂季膺縣主所藏唐語一卷蓋取唐山  
風流韻士之懿蹟譯非文然成章耳之  
則彼異邦事目上則我邦言事多涉  
丈選白氏文集唐山雖遐隔波濤萬  
里和漢人情彼此相苟今古矣擇哉媚  
嫋之情態香奩之聲口能盡其難言  
苟非老斯文者則何能摸寫其事狀

如此是編不詳撰者之名氏。縣主弱冠，游江都，獲僧西行手澤本，嘗與橘千蔭翁校讎，珍龍裝久之頃，京人城戶千指，請啟篇，梨束乃求予言。予曰：二公者，當代國學之翹楚，固不須吾言。是編雖久晦，乎須二公而顯，則擅者之無名氏亦不為遺憾。

文化戊辰春三月

# 准山烟維龍識

## 藏版和書目錄

明學堂

六々歌人贊	全部一冊	萬葉集類句	全部三冊
唐詩	全部二冊	消息文例	全部二冊
雁乃仍	全部一冊	仇喜草	全部一冊
松屋大人作	追蹤	海陽帖	正面揭
於之序	全部一冊	全部四冊	追蹤
文化六年己巳春三月			
皇都春林			
錦小路通室町西入北側中程			
恵比須屋市右衛門			

